



ダイコン箱詰め作業を楽に！

～ 水切り台車の改良、市販へ～

経営情報研究部

三浦半島地域は古くからダイコンの産地であり、毎年11月から3月にかけて収穫が行われています。収穫から出荷までの作業は、収穫したダイコンを洗った後に台車に積み、水切り乾燥後に箱詰めするという流れで行われています。このとき、作業する人にとって台車へのダイコンの積載と箱詰めは寒冷環境の中で腰曲げを強いられる重労働となります。

そこで、この作業を楽に行えるようにするため、市販の水切り台車をスプリングとパンタグラフの利用により改良しました（写真左）。



市販予定の台車



改良した水切り台車



改良前の水切り台車

改良した台車にダイコンを載せると台は下に動き、ダイコンを降ろすと台は上に動きます。このため、腰を大きく曲げることなく、ダイコンの積み降ろし作業ができるようになりました。また、ダイコンを載せる台は偏って積んでも傾くことのないように工夫しました。この台車の改良部分は、平成17年度中にメーカーから市販される予定です。

地域農業の担い手育成の取り組み

～ 横浜川崎地区事務所の農業セミナーについて～

横浜川崎地区事務所

当センターでは、新規就農もしくは新しい部門の経営を始めて間もない農業者を対象に、栽培や経営管理技術の向上と仲間づくりを目指し、農業セミナーを開催しています。横浜川崎地区事務所でも、毎年、野菜・果樹・花きの経営部門ごとに受講者を募り、セミナーを開催しています。

講座内容は1年目が基礎コース、2年目が経営改善コースと一般コースに分かれており、基礎コースでは、座学での講義や視察研修等による農業の基礎知識の習得と、月1回の巡回による実践研修を行います。2年目の経営改善コースでは、プロジェクト学習による課題解決能力向上を目指した取り組みを中心に、集合研修と月1回の巡回指導を行い、一般コースでは集合研修のみとし、巡回は原則として行いません。集合研修と巡回による研修方法は、受講者から知識が向上したと毎年良い評価を得ています。



野菜コースでの果菜類の接ぎ木講習会の様子

近年は受講者も多様化し、特にUターン就農者が増え、受講生の年齢も20歳代から50歳代以上と多岐に渡っており、それと同時に農業に関する知識も個人差が大きくなっています。当センターでは、個人ごとの習得度合を考慮しながら、新しい担い手が意欲を持って経営に参加していけるよう、支援を続けています。